

Title	語文 第5輯 編輯後記/投稿規定/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 5
Issue Date	1952-04-15
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/68401
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

✂ 編輯後記 ✂

◇三年前には四百軒近くあった大阪の古書店が最近ではその半数に激減して了つたという。国語・国文学関係の書籍を並べる店の数は、およそその一割位だから本屋歩きは楽になった勘定になる。しかしそれも東京相場が常に乗上つているので値のいい東京へと本の流れてゆくのも自然だとは言いやらぬらしいものがある。出版にしても大阪では学術書や学術雑誌の発行は殊にむづかしいという。

◇このような大阪に国文談話会ができて三年、その間、談話会は数多くの仕事を果してきたが、就中契沖阿閉梨岡珠庵再建のための募金運動が会員や多くの協賛者たちの奉仕によつて着々進捗しつゝあることは特記されなければならぬ。そればかりでなく上代・近世の文学研究会も大阪の北と南で夫々着実な歩みを続けている。大阪和字の総合的な研究への希望も昨年の契沖阿閉梨岡二百五十年忌を機に湧き上つたが、これ

も是非実現したい事のひとつである。われわれの大阪必ずしも学術不毛の地ではないのである。

◇今日も朝から雷鳴に似た爆音が研究室の硝子窓をひびかせている。

◇かかる時代の厳しさの中に本誌第五輯を遅れながらもおくり出すことのできることは吾々の喜びである。本号には小島教授に連載中の「奥の細道ところどころ」を中止して芭蕉の自然随順の性格・対自然態度についての所見を執筆していただいた。田中氏は連載論の建設者としての二条良基を通して、連歌が、殊に和歌に対して区別せられる諸性格を、当時の新しい文学精神の顕現として把握しようとして試みられた。横山・渋谷・岡、三氏の寄稿と共に読者に夫々興味深い問題を提起していると思う。

◇国語教育、今号にはドイツ文字の譚訳・研究に多くの業績をもたれる渡辺氏にお願した。

(八木)

✂ 投稿規定 ✂

○直接購読者は投稿することができる。
○原稿の内容は国語・国文学・国語教育に関するものであること。分量は四百語原稿用紙二十枚以内とする。

○原稿の送り先は「豊中市柴原、大阪大学文学部国文学研究室内、語文編輯委員」宛。

○原稿の採否は編輯委員に一任のこと。
○採用しなかつた原稿は返送料が添附してあれば返送に応ずる。

○一括購読者が投稿する際には代表者から紹介せられたい。

◆雑誌の寄贈・交換について

○雑誌の寄贈・交換は大阪府豊中市柴原大阪大学文学部国文学研究室宛に願いたい。

◆購読について

○購読希望者は発行所宛前金を添えて申込むこと。(送金は振替を利用されたい)

一部 四十円 送料 八円
一年分(四回分) 百六十円(送料共)

○五冊以上一括購読の時は一割引の上送料は不要とする。

語文 第五輯

定價 四十円

送料 八円

昭和二十七年四月十日印刷
昭和二十七年四月十五日發行

豊中市柴原

大阪大学文学部国文学研究室

編輯者 小島吉雄

發行者 大阪市南区横堀七丁目一九
前田春雄

印刷所 大阪市西淀川区栢里町三ノ二元
寿印刷株式会社

發行所 大阪市南区横堀七丁目一九
邦進社

電話船場(25)一九九〇番
振替大阪一二三一一三五番